

2016-05-19 講義資料 前回感想・疑問とコメント・説明

1. ゼミで「アイヒマン・ショー」を進められ、見に行こうとしていたので、講義は本当に興味深く聴いていました。・・・見に行ったら、感想は？
2. 今回の授業で一貫して感じたのは、自分がいかに世界の一部分しかみていなかったかということでした。ホロコーストについてもとても限られた部分しか見ておらず、なぜそうなったかすべての連続性のなかでとらえようとする姿勢が少なすぎたことに気づきました。一つの点ではなく、体系のなかの連続体の一つとして物事をとらえることの重要性に気づくことができました。・・・大変うれしい感想です。ケルブレ著『冷戦と福祉国家』も、個々の事実を戦後世界の全体的な動向・変動との関連でみていこうとするものです。
3. ヒトラーの『わが闘争』の出版問題
 - (a) この前、新聞で「出版できるようになる」と載っていたので、ヒトラーの思想について知りたいです。・・・すくなくとも日本では『わが闘争』は、戦前の日独防共協定や日独伊軍事同盟のなかで、翻訳され、戦後、角川文庫で広く自由に（発禁措置や読書制限なく）読むことが出来ます。新聞記事の何かの読み違いでしょう。ドイツでは別です。ドイツでは発禁措置が一貫して取られました。今年一月、**長い禁止期間の後**はじめて、ミュンヘン現代史研究所の「批判的校閲版」が出版された。その歴史科学的には批判を読み飛ばす、無視する読み方もありうるので、ネオナチ・極右勢力、その他の国粹主義的潮流の人々が自分たちの目的に活用する可能性はある。ただ、「自由の国」アメリカその他では出版されており、英文などの翻訳で読むことはこれまでも可能だった。インドの場合も、ヒンドゥー至上主義・ヒンドゥー民族主義者が、ヒトラーの『わが闘争』を翻訳で広く読み、普及していた、というのが前回紹介したワールド・ニュースの内容。
 - (b) 図書館の『アンネ・フランクの日記』の「破り捨て事件・・・過激で怖い事件・・・そのようなことが日本で起こった経緯を調べてみたい。・・・いい期末報告のテーマの一つです。
4. ドイツ人の友達が授業中に手を挙げる際、日本では手を挙げるように、5本指を伸ばして手を挙げる挙手の仕方はしてはいけない（ヒトラー時代のやり方をイメージさせるから）という話を思い出した。・・・ナチ宣伝の禁止・な知識やり方に対するドイツにおける厳しい姿勢。
5. 難民問題とネオナチとの関係・・・「初めて知り驚いた。」・・・難民問題では、ヨーロッパ諸国の多くにおいて、前回も触れたスウェーデン、それにノルウェー、オーストリア（自由党候補、第一回選挙で33%で筆頭に。次の決選投票で大統領で当選するかも）、フランス（大統領候補の一人・・・国民戦線の女性党首ルペン）などに広がる大衆支持¹。
6. ユダヤ人虐殺の地域が、ポーランドやウクライナなどに集中していたということでしたが、ポーランドが以前からユダヤ人を受け入れやすい体制の国であったからか？²
7. ナチスの戦後の逃亡先が、なぜ中南米？³
8. 中南米にナチ残党が逃亡したことが、「現代においてどんな影響があるのか？」⁴

¹ これらも、現在のヨーロッパ社会を考える重要テーマとして、期末に向け調べるに値するテーマ群。

² 虐殺の地域がポーランドおよび白ロシア・ウクライナが多かったのは、独ソ戦の現場だったから。ポーランドにユダヤ人が多かったのは、別の歴史的諸要因。この問題を調べて期末報告にするのも面白い。宗教と政治・経済の問題。

ルター福音主義など宗教改革の中で、ユダヤ人迫害・・・東に逃亡してポーランドなどへ。スペインにおけるレコンキスタ（キリスト教徒によるイベリア半島再征服、イスラム勢力の追放）・・・イスラム支配者のもとで商業などに従事していたユダヤ人も追放。

³ これも歴史的諸要因を背景に、また、戦争の対抗関係を背景に。・・・この問題も、期末報告の調査のいいテーマ。

⁴ ナチ残党が中南米に逃亡したこと、それが現地社会でどのような役割を果たしたのかは、

9. ナチス・親衛隊などで経歴を画した人の正体がばれたことは？その場合、殺されたりしたか？⁵
10. ナチの過去を暴露された有名人
 - ・ 国連事務総長ワルトハイム (Waldheim) ⁶
 - ・ アーヘン大学学長スキャンダル・・・『シュナイダーからシュヴェルテへ』⁷
 - ・ クラウス・バルビー事件 (フランス人、ヴィシー政権下のナチ協力者・ユダヤ人迫害加担者)・・・フランスでは、ドイツ支配下の過去に何があったか？⁸ 対独協力とレジスタンスの狭間で。
11. ヒトラーやアイヒマンなど、人種主義者が、「アーリア人種が階級で最高位で、アジア人など黄色人種やユダヤ人を劣等と位置付けていた。高慢であると感じた。⁹
12. 何百万ものユダヤ人が「ユダヤ人だからという理由だけ¹⁰で殺されてしまったという事実に驚いた。また、それほどまでの大量虐殺を命令したヒトラーのカリスマ性¹¹に正直すごいなあと思った。
13. 平凡な(?)人間であったアイヒマンがユダヤ人の驚異となるまでには彼の所属していた機関や役職が多大な影響を及ぼしていたことが分かった。¹²
14. 現在、ネオナチ、極右思想、排外主義といった危険思想を受け継いだ人々がいつことにとっても驚いたと同時に、これらに抵抗する意思を見せる人がいることに感動。

入内テーマ。アイヒマンを「匿い」、活動の場を与えたのは、アルゼンチン軍事政権 (右翼政権) だったとすれば、どのような経路で、どのように？

⁵ いろいろな事例。アイヒマンの場合。アウシュヴィッツ裁判の場合 (「顔のないヒトラー」)。

ケルブレ著『冷戦と福祉国家』が示すように、第二次大戦直後、とくに、ソ連支配下の東ドイツでたくさんの親衛隊員など目立った活動家が処刑などされた。

戦後混乱期を終えて、50年代からの高度成長期には、ナチ犯罪追及が緩まった。「沈黙の時代」。しかし、アウシュヴィッツの犯罪を問う人々 (ドイツ人) は、ずっと『犯人』を捜し続け、ついに50年代末、にフランクフルトで裁判を起こすことになった。しかし、有罪判決。ドイツは、ナチ犯罪に時効なし、という決定を議会で言い、追及の姿勢を崩さなかった。ルートヴィヒヒスブルクに、ナチ犯罪にかかわるデータ・センターを設立し、ずっと強制収容所等の管理人などの情報を集め続けている。

⁶ 誰か、この事件の経過を調べる人は？ 期末報告の一つのテーマになりうる問題。オーストリア社会が、どのようにこれを取り上げ、どのように対応したか？ その過程で、ドイツではどのような対応が見られてか？ これまた、ヨーロッパ社会の認識を研究を通じて深めるいいきっかけになると思われる。

⁷ クラウス・レゲヴィー著齊藤訳『ナチスからの「回心」－ある大学学長の欺瞞の人生－』現代書館、2004年。

⁸ これまた、期末報告の一つのテーマとなりうる問題。

⁹ まさに、「高慢」、傲慢、というのが、ヒトラー・ナチズムの思想を特徴づけるもので、最近翻訳されたイアン・カーショー著『ヒトラー』上・下 (白水社、2016年1月刊)の上巻の副題タイトルは、「傲慢」を当てている。人種主義とは、いろいろな人種をひとまとめにして、その優劣を位置づけつ発想。優劣を主張するだけではなく、優秀な人種による劣等な人種の支配を正当化する思想。これは、戦前の日本でも、大和民族を最高に置き、周辺諸民族を下に置く発想として存在したし、民主主義の国とされるイギリスやアメリカ、フランスなどにも存在する思想潮流。・・・期末報告の一つのテーマとしてこれを検討してみるのも、ありうるであろう。現在の、「ヘイトスピーチ」などの批判的検討も、関連事項だろう。

¹⁰ 前回説明できなかったことだが、「ユダヤ人だから」というのが理由だけだろうか？

¹¹ 上述のカーショーの本を読み、「カリスマ性」の意味内容を検討してみる必要がある。

¹² 組織人間の陥る危険性は、現代社会でも。最近では、三菱自動車燃費データ不正操作問題での組織人・会社人間の行動。あるいは、原子炉事故における経営陣の責任。いまでも、原子炉安全神話を推進している企業人は多いのでは？次に事故が起こったとき、被害は周辺住民をはじめ膨大になると思われるが、だれが責任を取るのか？

フランスにおける老朽化原子炉に反対する運動・・・隣接国ルクセンブルク、ドイツにおける反原発運動・環境保護運動。